

令和3年度第1回
佐世保市総合計画審議会
会議要旨

【日 時】 令和3年12月15日(水) 13:30~15:30

【場 所】 佐世保市役所本庁舎3階 全員協議会室

会 次 第

1. 開会
2. 企画部長挨拶
3. 議題
(1) 各政策・施策内容と次年度に向けた方向性について
4. 閉会

○出席委員 17名
欠席委員 3名

【資料】

- ・資料1 佐世保市総合計画審議会の委員の役割
- ・資料2 第7次総合計画の政策・施策体系
- ・資料3 第7次総合計画「政策・施策シート」(次年度に向けた方向性)
- ・資料4 第7次佐世保市総合計画へのご意見・ご質問について
- ・資料5 「九州・長崎 IR」について

1. 開会

2. 企画部長挨拶

3. 議題

(1) 各政策・施策内容と次年度に向けた方向性について

～事務局より内容説明 「しごと」分野～

【飯田副会長】

コロナ禍にあり、観光客の数あるいは経済波及については、対前年比や対前々年比は全く話にならないくらい大きな打撃を受けている。

まさに交流人口の増加を目指し、そしてそれによる観光客の流れ込みによる活性化、雇用を増大し、そして地域を向上させようという動きが全く止まってしまった。

今、コロナについては少し沈静化をして、落ち着いてきている。

少しずつ明るい話題も出てきており、あるいは行政による各種補助施策等により、少し明るい兆しが目指されてきたところでもあるが、これをじっくりゆっくりした、今まで通りの生活を守りながら、元に戻していきたいということで、初めての観光客を誘致するようなしっかりした初心に戻った運動を繰り広げていきたいと思う。

その中で、少しずつ観光の流れが団体から個人へという流れに変わってきた。

個人のお客様方は、決められたルートではなく、それぞれ思い通りのコースをお取りになる。

そのときに、やはり佐世保は、県北地域の観光資源の中心地として、その立場をしっかりとらえて、頑張っていかなければならないと思っている。

さらにまた、佐世保から伊万里、唐津、糸島、福岡、こういうラインで北部九州の沿岸地を結ぶルートの再開発等で各県境、あるいは市の境目、これを超えたことをしっかり考えていかなければいけない。

そういったことで、改めて観光の部分については、全く新しい形で文言を作っていかなければならないのではないかと考えている。

【折原委員】

新規就農者数について、K P I が 1 1 人に対して 1 7 人と達成されているが、後継者で承継された方も多く、実際に新規ということで就農された方はそこまでいないのではないかと。

実は、新規就農者を募るとき一番問題になるのが、当初の設備投資であり、どうしても農業を始めるときにはハウスなり農業機械なりかなりお金がかかる。

農業に興味持つ方が結構多いが、どうしても踏み切れないという方が多いというの

が実情である。

そのあたりをスムーズにするにはやはり設備投資を軽くするような補助が必要。

また、生産高を増やすにはどうしても労力が必要であるため、その支援等についてもお考えいただきたい。

【船山委員】

私は移住してきたので、外から見た佐世保の魅力を十分わかっており、四ヶ町商店街も今が変わるチャンスだと思う。

海の見えるところに美術館や動物園があったらいいなと思っており、美術館と動物園の移転は賛成だが、作るときに個人がどんなものができたらいいかということ聞いた上でできたらいいと思う。

孫がいたりすると、佐世保はどこに行っても、行きたい場所がなかなかない。

それから東京から友達が来たときに、展海峰へ連れて行くのととても喜ぶので、佐世保の人はもっと海があることに自信を持っていいと思う。

【横山委員】

佐世保は水が弱点。

全国的に見ても、1345自治体中で見ると1091位ということで、最下位の夕張市に近い状況。

公共下水道の普及率を見ても今後、合併浄化槽を下水道に変えていこうとするが、その際、当然水を大量に使うことになる。

先ほど事務局から、企業立地政策のK P I達成度は115.2%で目標が達成されているという説明があったが、これはおそらく小佐々の工業団地の方で、相浦という広大な敷地というのは、なかなか建物が少ない状況になっている。

熊本県菊陽町にはT SMCの半導体工場ができ、このプロジェクトを見て、これを相浦にもってこられないだろうか考えたときに、やはり水という問題がある。

市長さんは水を使わない産業を誘致しているということで努力されているが、今後のことを考えると、水の弱点を克服する必要があるのではないかと、川棚町の石木ダムの早期完成が打開策になるのではないかと思う。

5年前から行政代執行が可能だが、全くの膠着状態になっている。

石木ダム完成によるメリットを受けるのは佐世保市なので、何らかの形で、佐世保市もこうした問題に絡んでいく必要があるのではないかと思う。

若者の流出を防ぐには、就労の場や定住の促進が必要であり、そうしたことを考えると、関係の人が集まってプロジェクトチームを作り、総合的に水道、企業立地、就労、移住というものを検討する場が必要なのではないかと思う。

最初に副会長がおっしゃられた中心市街地の活性化を必須というのは、まさにその通り。

広域都市圏というのは総務省も推進しており、まさに47万人の中の中樞になるのが佐世保市。

ただ、佐世保市の現状を見ると、中心街は五番街と三ヶ町、四ヶ町アーケードがあり、西九州自動車道で分断されているために、結局、五番街が栄えていても、それが三ヶ町、四ヶ町との間のゼロサムゲームになっている。

もし、その中間地域に、西九州自動車道が通っていて、そこが広大な空き地になっていると、両方をつなげるように商店街ができ、たぶんさらに大きい広域商店街がつかれるのではないかと思う。

その三ヶ町、四ヶ町と五番街の間に何とか人の流れをつくると、多分、三ヶ町、四ヶ町も五番街もさらに人が集まり、周辺地域からもどんどん買い物に来てくれる状況になると思う。

ただ、どうすれば中間地域を活性化できるかというのは、今後考えてみたいと思っており、皆さんからお知恵をいただければありがたい。

【船山委員】

かねてから思っていたが、私は名切がすごくすてきだと思っている。

名切で子供たちを遊ばせて、商店街で物を見て、五番街に行くという感じで、ラウンド形式にし、買い物だけじゃなくて、人がそこに来て、動くことが楽しいっていうまち、全部が一つの丸になるような、楽しいまちになったらいいと思う。

【檜楨委員】

この会議の意図や使い方がはっきりわからない。

具体的に言うと、事務局からの説明で後期計画に反映させるとあったが、課題やアイデアがなんとなくバラバラになっている。

この総合計画審議会の総合計画の推進という角度から、皆さんから出されたアイデアや情報をどういうふうに着させて、全庁化して、オール佐世保にしていくのかというのがすごく大事。

そういう点では、例えば今日の議論を、中間年の情報として整理をして、市民に公開して欲しい。

そうしないと、なかなか総合計画全体という中で、ここを出されているアイデアが各部局におりていくだけが精一杯。

どういうまちにするんだということを、皆さんおっしゃっているが、基本構想と基本計画の間にある断層を埋める作業が必要で、そこが出てこないとなら共有するのが難しい。

皆さんの意見を後期計画やK P Iにどう反映させるのかというところにはいかないで、ちょっと持っていく方を考えてもらいたい。

あと、学校区や地区自治協議会の27地区、福祉といった区域の問題。

その区域の人口減少の仕方に合わせて、区域を一つにする必要はないが、それぞれテーマごとの区域があり、例えば、学校教育の方は小学校区・中学校区という単位で動き、福祉の方は包括支援センターの単位で動く、或いは観光の方がもっと大きな範囲で動いている。

立地適正化の中で、都市区域と周辺区域の議論というのは出てきており、人口の構造的な変化をもっと意識しないと、せっかくのアイデアの主体がはっきり見えてこない。

【西岡会長】

事務局から説明があったが、議論の対象になっている総合計画は、行政全体を取りまとめる最上位の計画。

全国の主要な自治体のほぼすべてがこの計画を作っており、私もこれまでたくさん携わり、見てきたが、佐世保市の計画は非常によくできており、各部門の縦割りのままで終わらず、一つの計画にしようとする高い志と意気込みを持って作られているのが、その資料の冒頭から伝わってくるような内容になっている。

～事務局より内容説明 「ひと」分野～

【藤川委員】

私からは、多様性ということで提案した。

私が子供の頃は、勉強ができなくても足が速い子は人気があったり、多様性が認められていたが、今は基本的に勉強ができない子はあまり相手にされないということを知り、子供たちの価値が変わっていると感じた。

それぞれ子供たちは、いろんな得意な分野で活躍できる多様性があると思う。

それから、ハーフの子が学年に必ず1人2人は必ずいるような状況もあるので、人種的な多様性を認めていかないといけない。

また、人と違ったなにかというのに対して、特に小・中学生はすごく怖がっている感じがある。

これから先、打破するために、やはりもう少し具体的に、総合計画の中に文言を入れた方がいい。

それから、もう1点、放課後子ども教室に関して、コーディネーターの確保に苦労している。

また、子ども会がコーディネーターの存在を知らないという話もあり、それを広く周知できれば、コーディネーターは、放課後子ども教室だけではなく、PTAや子ども会の行事と連携し、事業も増やせるのではないかと。

【川原委員】

保育士予備軍が仕事を探すにあたって求めるものは、給料ではなく働きやすさ。

卒業生を調査すると、半年ぐらいで、自分のモデルになる先輩保育士を見つけ、1年頑張ると、1年頑張ると四季折々の行事とか自分の業務が分かってくるので3年頑張れる。

しっかりした初任時研修とジョブコーチをつけていただければ、若者たちが定着し

て安心して働けるのではないかと思う。

一体的に若者を定着させるためには、やはり仕事を覚えさせていく、教えていくといった、事業主や先輩たちの責務があるのではないかと思う。

【西岡会長】

藤川委員からは、事前に提出されていたご意見に対する補足説明、川原委員からは、保育士の労働現場での声を吸い上げて要望として話していただいたかと思う。

～事務局より内容説明 「まち」分野～

【黒川委員】

ごみ一人1日あたりの排出基準とあるが、昨今、新型コロナの関係上、使い捨てマスク、布製マスクを使用し、処分しなければならず、排出されるごみの量が増えているという事情はあるかと思うので、今の数値等を見直していただければ。

再利用について、新型コロナ関係で使用される衛生品については、再利用できず、処分をしなければならない。

再利用できない衛生品については、再利用の排出基準に除外品として追記した方がよいのではないか。

最終的にごみとして処分するものについては、再利用できない場合、佐世保市の指定袋に入れて処分しなければならない。

その場合、現在、年間5枚のごみ袋購入補助券、コロナの関係で6枚となっているが、それでは到底賄えない量のごみが排出されることが予測される。

【横山委員】

排出量のK P I だが、佐世保市では目標が達成されていて、それはそれでいいと思うが、実際、私が政策評価を中央府省庁でやってきた中で言うと、K P I というのは必ずしも把握できない部分がある。

佐世保市で少し気になるのは、他の市や町にはないような「不法投棄をやめてください」という看板があること。

実際、自治会で清掃活動をやった時にも捨てられているごみはかなりあった。

K P I の目標の達成も非常に素晴らしいが、K P I から漏れている部分もあるので、今、黒川委員が言われたことも踏まえていただくといいかと思う。

【檜楨委員】

環境の問題で、カーボンニュートラルが出てきた。

今の環境に関する政策のイメージが少し変わってきており、環境部でやっているということだが、全庁的な議論にできるようなことをしてもらえないだろうか。

あと、温暖化の問題等で災害がたくさん出てきている中で、この辺の取り組みが少

し足りないという実感があるので、企画の方から少し提起をしていただければいいかと思う。

【西岡会長】

「まち」分野について、黒川委員からは、事前にいただいていた意見についての補足説明、横山委員からは、不法投棄に関する警告看板について、檜楨委員からは、カーボンニュートラルと温暖化による災害について指摘あった。

それについて、事務局から関係部局に伝えて、次期計画に反映できるようにしていただければと思う。

～事務局より内容説明 「くらし」分野～

【船山委員】

今、行政がやっていることは至れり尽くせりで、未来を考えたときに、やっぱり老後は個人が力をつけていかないと、経済面でも乗り切れないのではないかということ意見を書かせていただいた。

【永瀬委員】

質問になるが、「くらし」だけではなく各施策で、コロナによってかなり目標値とのずれが出てきているが、来年度以降の目標値の修正は出てくるのか。

【事務局】

総合計画のつくりとして、基本計画の下に実施計画というさらに詳細な計画があり、その中で、年度ごとに直近の社会情勢を見極めながら、目標を立てている。

その実施計画の中で、計画や具体的な取り組みを記載し、事業を実施している状況であり、こういうご意見も含めながら政策や施策を打っている。

【檜楨委員】

まず、コミュニティについて、行政サイドが活性化というふうに言っているが、実際に動きを見ると、市民同士だけの活性化はなかなか難しい。

例えば、職員の地域担当制と言われるようなものがあるが、地域ともっと関連づけるようなことを、市民生活部ではなかなか言えないと思うが、少し言ってもらいたい。

そうしないと、実際は違うだろうが、市民の人たちに自分たちでやりなさいと突き放している感じがどうしてもある。

また、防災に関して、やさしい日本語というのは、外国人が自分たちの危機を語れる、あるいは聞けるような、ゆっくりした日本語で、いわゆる文化を作っていく必要がある。

だから、これは担い手として消防がやるというわけではなく、市民同士でやる、前

者は、市民だけではなく行政と一緒にやる、そのような作り方を、ぜひ出していかなければならない。

【西岡会長】

「くらし」分野について、船山委員からは、事前に提出いただいた意見に対する補足説明、永瀬委員からのコロナに関する目標値の変更があるのかという質問については、個別の計画の中で対応するという回答があった。

また、檜楨委員からは、コミュニティについてのご意見、あと防災関連で外国人にも伝わるメッセージの出し方について提案があった。

～事務局より内容説明 「行政経営」分野～

【船山委員】

大学で社会学をやっていたので、世の中をどうやったら変えていけるかとかいろいろ考えてきたが、最終的には一人一人が元気になることが大事。

そして、総合計画に目を通したが、本当によくできていると思った。

でも、一人一人の市民がもっと佐世保に自信を持って生きていかないと、何も変わらないのではないかと思い、この会に公募で参加させていただいた。

一人一人が元気になることを、ここで吸収して、隣の人に広げていけたらいいと思う。

【西岡会長】

時間になったので、これで終了する。次回以降も様々な意見をお願いしたい。

以 上